

皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介にあずかりましたクリスチャン・ユーチューバーの高原でございます。今日は生で見ていただこうと。こんなにたくさんの方に来ていただいて感謝しております。

恐らく車で来られた方が多いと思いますが、やっぱりアメリカは自動車がないと中々不便だと思います。自動車大国のアメリカ デトロイトで、毎年、北米カーオブザイヤーという賞が決まるんですね。自動車評論家のプロが集まって、プロ中のプロの厳しい目で、「今年売れた車の中で、この車がナンバーワン」という最も優秀な車を投票で決めるのですが、3年連続日本のメーカーが受賞しているんです。どこだと思いますか？（会衆：トヨタ！）ブー！ 言うと思いました。売れているのはトヨタ。実はホンダなんですよ。

ホンダの創業者は本田宗一郎（ほんだ そういちろう/1906-1991/M39-H3）という方ですが、私、1回だけ一緒にご飯食べた事があります。何か自慢しているみたいで、自慢してるんですよ。大きな会社の社長、エラそぶった感じの人かなと思ったら全然違う。町工場のオヤジですよ。左手の指が全部ぺっちゃんこ。ハンマーで何回も叩き間違っ、骨グチャグチャ。

1対1ではなく、本田さんをたくさんで囲んで食事して、その後、彼の話を知りました。元々自動車メーカーじゃなくてオートバイメーカーです。ホンダの原付は1億台以上売れている。エンジンが付いた乗り物の中で、人類史上最も多く売れているのがホンダの原付とされています。特にベトナムでは、オートバイが洪水のようにワッと走って、もう大変な状態。ベトナムではオートバイの事を「ホンダ」と言うんです。シェアが95%。それでオートバイの代名詞がホンダ。なので、ベトナムでヤマハのオートバイを買う時は、「ヤマハのホンダ」を買う。それを楽しそうに、誇らしげに言うわけですよ、本田さんが。今や、オートバイだけじゃない。車だけじゃない。ジェット機まで造っています。ホンダジェット。

ホンダの本社工場が東京にあります。そのデザイン設計したのは本田宗一郎さん。行ったら分かりますが、変わった建物ですよ。高層ビルですが、各階にベランダが付いている。ベランダはマンションには必要ですよ。洗濯物干さなあかんから。ホンダの本社で、なぜ各階ベランダ？

東京は地震が多い。特に関東大震災以来、大きな地震はまだ起こってないでしょ。これは地震が永久に来ないという事ではなく、プレートにエネルギーがたまっているんです。だから、次に起こる地震は半端ないのではないかとされている。高層ビルは揺れます。揺れて、ある限界を超えると、窓ガラスが滅茶苦茶に破れます。そしたら、下を歩いている行人にガラスの破片が襲いかかるじゃありませんか。しかしベランダがあれば、その破片を全部受け止める事が出来る。下にいる人には危害が一切ない。そこまで考えているんです。

その話を聞きながら「できる経営者はちょっと違うな。目の付け所が違う。」どこが違うか？ いつでも最悪の事を前もって考えておいて、それが起こった時、あたふた動揺するのではなく、前もって準備をしておく。それが一流の経営者。

会社に経営者がいるように、「全宇宙をお造りになった宇宙の、自然界のオーナー/経営者がいるんだよ」

と聖書は語っています。この世界を統べ治めておられる、目には見えないけどオーナーのような経営者のような方がおられて、それを聖書は神/創造主と呼んでいるのです。

人間の優れた経営者でも最悪の事が起こる前に準備しているとするなら、ましてや全知全能の神が、あなたの人生の最悪を前もってご存知で、そこから脱出するための用意をしてくださっているというのは、ある意味当然の事です。

今日は、この神様が皆さんの人生の祝福のために、何をしてくださったのかをお伝えしたいのです。

もう1つだけホンダの話をする、昔、新車発売のダイレクトメールをドツと送った事がありました。便箋に「試乗会しますから見に来てください。」そして「命のダイレクトメール」と書いてある。便箋の中に植物の種子が編込まれていたのです。「案内を読んだ後、便箋を水に浸けて地面に植えてください。やがて芽が出て花が咲きます」と。ただの手紙じゃない。命が宿っているよって。中々粋な事をね、やってくれるじゃない。

聖書はもっともつとすごい意味で、永遠の命を伝えているという意味で、命が宿った言葉・私たちに命の灯をともししてくれる神様の言葉なんですね。この神様の言葉・良き訪れ・グッドニュースの事を福音と言いますが、今日は福音の中でも代表的なところから一緒に考えたいと思います。

**ローマ 6:23 罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。**（新改訳第3版）

ここから3つの事を紹介したいと思います。聖書メッセージのエッセンスは、究極的にはこの3つに絞る事ができると思うからです。

1) 「**神の下さる賜物**」の「**神**」は人が作った神々ではなく、人をお造りになったあなたの魂の親。あなたの作者。全天全地をお造りになった第一原因者。それを聖書は創造主/神と呼んでいます。いいですか？人が作った宗教の神々を言っているのではありません。人を造ったんです。「『が』でも『を』でもいいやん。カまんでも。」あかんです！これ重要。

よく言うんですけど、檀ふみ（だん ふみ/1954-）さんという女優さんがいらっしゃいます。この前「いらっしゃった」と言って、すごく怒られました。ご健在。檀さんが若かった時、英語が全然できない中学生のいところがいて、あまりにも成績が悪いので、家庭教師を頼まれて引き受けました。クイズ形式なら勉強長続きするかなと思って、「エレガントってどんな意味?」「そんな難しい単語、まだ習ってないから分からない。」「ヒントあげる。私をよーく見て。第1印象を日本語で言えばどうなる?」「分かった! 象や。」それはエレファント。エレガントとエレファント。音にしたら1文字しか変わらない。エレガントは優雅な・品がある・上品。男子中学生から「象」と言われた女優ってどうよ。「ええかげんにせーよ」って感じじゃないですか? 一字違うだけで随分違いますよね。

でも、もっと違うのは、人が作った神々なのか、人をお造りになった神なのかです。人間の宗教心がこしらえた人が作った神々は、人を助ける事なんかできない。人をお造りになった方は作者だから、作品が壊れたら修理する事ができるのです。

この間、人体の不思議に関する番組があったので見ていたら骨の特集でした。骨。

成人段階で骨は 208 本あるそうです。その中で特に集中しているのは足。くるぶしから下だけで 26 本。右足 26 本・左足 26 本、両方で 52 本。208 本の 25%は足の骨。人間は 2 本足歩行。バランスを取って歩くためには、非常に複雑なデザインが必要なので 26 本も骨が繋がっていると。

だけど、もっと繋がっている所がある。もっとたくさんの骨が集中しているのが頭蓋骨ですって。頭蓋骨は天然のヘルメット。ヘルメットは一体物ですが、脳を守ってくれている頭蓋骨は、29 枚の骨のお皿が繋ぎ合わされています。つまり皆さんは、29 枚が繋がった継ぎはぎヘルメットを被ってはる。継ぎはぎという事は、外から力がガンと来た時に、すぐ形が変わるんです。壊れやすい。変形しやすい。大事な脳を守るのに、なぜそんな骨の形をしているんだろう？

29 枚も重なっていたら、衝撃が来た時に 29 か所に分散するからだそうです。それによって、脳の衝撃を極限まで低くする事が出来る。言わば、究極のショック材システムを持ったヘルメット。司会の方が「いやあ、上手く造られていますね。まるで、誰かが造ったみたいですね」と。「そうだよー！ 分からへんのかー?!」みたいな。テレビの前で 1 人で騒いで。

ここに耳がありますね。耳の中にも骨があって、耳小骨（じしょうこつ）と言います。耳小骨は鼓膜の振動を聴覚神経に伝えるための骨ですが、208 本の骨の中で唯一成長しない骨。3 つのパーツで出来ている骨ですが、赤ちゃんの時から死に至るまで一切成長しない。普通は太く・長く・大きくなる。で、途中から（\*腰が）曲がるんですよ。

耳小骨は、どんな成長期でもサイズは変わらない。音を伝える部分の骨が変わると、音の聞こえ方が年齢によって変わってしまうから。赤ちゃんの時に「ド」と聞こえていた音階・音程が、成長に従って「ミ」とか「ファ」になったら音楽教育できないじゃないですか。小さい時に聞いていたママの声と、1 歳で聞いたママの声が違ったら、「あんた、誰？」みたいな。音程を考えたら、この骨だけは絶対に成長してはならないのです。最初から完成したものでなければならぬ。なんで、こんなに上手い事できてますか？

合理的なもの・見事なシステムを持っているものを見たら、考え抜かれている思想設計に基いて出来上がっているから、考えた方がいると、誰もが予想がつくんじゃないかと思うんです。自然界を見るならば、まさに考え抜いた方・あなたを素晴らしくお造りになった方・作者がおられるのが分かるじゃないですか。

ある方が言ってました。道を歩いている時タンポポを見て、「ごらん。人間の背丈よりも低い所の花は、みんな上向いて咲いている。ヒマワリみたいに、人間と同じ背丈の花は大体横向いて咲いている。桜みたいに、人間よりも上の方に咲いている花は下向いている。人間が鑑賞しやすいように咲いている事、不思議だと思わないか？ まるで、神様が花束を差し向けて『さあ、気落ちしないで。嫌な事や辛い事あるけど自然界を見てごらん。わたしがあなたの心を励まそうと、これを造っている事が分かるでしょ』と言われているみたい。」

世界を見るなら、善意に溢れた良い方が、私たちに励ますために・喜ばせるために、非常にシステムティックに造ってくださっているのが分かるのではないですか？

自然界は神様の作品集を展示している美術館のようなもの。その中で、神の最高傑作は人間なんです。

つまり、あなた。「え、私?!」そやねん。中には「私のどこが?」と思うかもしれませんが、神の目にはそうなんですよ。だからまず、この事を覚えていただきたい。皆さん、あなたは自分の意思で生まれて来たんじゃない。親の意思で生まれて来たのでもない。

ある家では「今度こそ男の子が欲しい」と思っていたのに、また女の子。ある家では、今度は女の子が欲しいのに5人兄弟。全員男。「くさい!」みたいな。親には性別の選択はありません。私たちは、自然のいたずらでこの世界に生まれて来たんじゃないんです。皆さんが誕生したのは、不幸にして不運な事ではない。

全知全能の、すなわち絶対に間違いを犯さない方・思いつきで行動を起こさない方・間違っただけを何一つ行わない方・良い事しか行わなかった神があなたのルーツなのです。その神様が、皆さんがお母さんのお腹に宿る前に、既に「この子がこの世界に生まれて来てくれたら、どんなにいいだろう」と夢を託して、あなたをお造りになったのです。全知全能の何でもできるお方が私の親で、私の祝福を願い、私を愛しておられるという事を知るだけでも、人生の構えが随分変わって来ると思います。

2) ここで1つ疑問が起こるんですね。神は良い方で、神がお造りになったものの最高傑作が人間なら、なぜ人生は祝福だけに彩られないで、嫌な事・がっかりする事・死にたくなる事が起こるのか? 神は祝福の源で、神が造ったものの中で1番尊いのが人間なら、どうして全ての人が幸せに生きているのではなく、はっきり言って、動物の世界にもないような醜いさかい・裏切り・殺人が起こるのか?

世界的なデータでは、殺人事件の犯人の40%は家族ですよ。見ず知らずの行きずりの人に殺されるよりも4割が家族。本来は愛し合うべき関係がもつれて、そして関係がこじれて、実は一般の人との和解よりも、親しい人との仲直りの方がはるかに難しいのです。

どうして、そうになってしまうのか? 神様が私たちに準備しておられる祝福と私たちの間に大きな壁があって、私たちは神の祝福を受け損なっている。その最大の原因こそが罪なのです。

### ローマ 6:23 罪から来る報酬は死です。

聖書によると、全ての人は罪人。ここにおられる方、例外なしに全員罪人。私も罪人の頭(かしら)です。なぜ聖書が罪人の事を語るかというと、人間を軽蔑しているからじゃないんですよ。

ある人が車を運転していました。すると、対向車線の車がパッシングで何か合図している。どんどんスピードを緩めて、ゆっくりすれ違いざまに「ブタ!」と言って去って行った。彼は太っています。「失礼な! 今更じターン出来ないし、何だ!」そうして、次のコーナーを曲がったら、豚の大群がいたんです。近くの養豚場でトラブルがあって、道路に豚の大群が流れ込んでいる。それを文章で言う余裕がないから、すれ違いざまにひと言「ブタ!」これは悪口じゃない。心配している。「次の角を曲がった時、そのままのスピードで突っ込んで行ったら事故起こすよ。」危ないという警告。

聖書が私たちに「罪人」と語るのは警告なんです。人間を不幸にしている問題の、正確な診断を与えてくださっているのです。診断が正しくないと、正しい処方・治療法を受ける事が出来ないから。

ところで、罪というと、それぞれ色んなイメージがあると思います。聖書が語る罪はギリシア語で「ハマルティア」。この言葉の本来の意味は「的外れ」。

神という人間の目的から外れる事・神から離れて生きる事・人生から神を追放して「神などいない」という人生観で生きる事・神を無視して生きる事・自己流の人生観で神無き幸福を追及して良しとする事。

昔大阪に、アメリカからある宣教師が来られました。天満宮という神社があって、大阪で1番大きいお祭りを天神祭りと言います。ピーヒャラピーヒャラ、花火バーン。私は花火だけ見るんですけど。

天神さんの通りをその宣教師が歩いていて、向こうから歩いて来た日本人男性が財布落としはったけど気づいてない。それで拾い上げて「落としましたよ」と渡したら、彼はそれをふんだくるようにして「天神さんの神社の前で落としたから、天神さんが拾ってくれたんや。」

そして、拾ってくれた宣教師がまるで存在してないかのように、鳥居に向かってお辞儀して去って行った。彼は「日本に来ていくつか『寂しいなあ』と思った事があるけど、これがその一つだった」と。

人格ある者にとって一番大きな失望は無視される事です。こっちが無視したので、報復で無視されたんじゃないんです。できるだけ好意を示し、親切を提供した時に無視される。辛いですね。

神を無視するというのは、それにちょっと似ていると思います。

神様は財布は拾ってくれないでしょう。しかし、私たちが生きて行くのになくてはならないものは全部、神がタダで下さったのではありませんか？ 空気・水・太陽・エネルギー・自然界・時間・空間も。

人間が生きて行くのになくてはならないものの中で、人間が発明したものはない。

全部神様がタダで養い育て、良くしてくださっている。

命の恩人のような、自分の命を支えてくださっている方の恩恵を受けながら、「神なんかいない。いたとしても、私は関係ない。神がなくてもやっていける」という人生観を聖書は罪と言うのです。

罪の結果、世界の本当のオーナーを消してしまった結果、この世界は自分のために存在しているかのように勘違いします。

あるおじいちゃまが「全身が痛くなる病気に罹った」と大騒ぎして病院に行きました。

「全身が痛いつて、どこですか?」「全部じゃ!」だから全身、言うんですけどね。

頭・ほっぺた・喉・胸・腹・お尻・足・背中・どこを指しても痛い。「もう死なせてくれ!」

精密検査しても、どこも悪いところない。「でも痛いもんは痛いんじゃ!」。何で痛いのか? 指、折れてた。

折れた指で指すから痛いの。原因は指。でも、指が折れていると考えないなら、痛みは、本来何の責任もない全身が被る事になってしまう。

この世界を生きて行く中、本当に難しい人がいる。ややこしい人がいる。上手くいかない事がある。

「なんで、私の人生をこんなに邪魔するんだ?! アイツもコイツも。」「世の中は、やっぱり間違っているじゃないか!」間違ってますよ。間違ってますけど、あなたも間違ってます。

世の中全体が神から離れているから世も間違っている。

だけど、間違っていると非難している自分自身も、世界のオーナーでも何でもないので、世界は私の願いを叶えるために存在していると思い、それを実現するのを権利だと考え、それが実現できないと、邪魔者がやって来たと思うのではないですか?

「子供は私の野心を遂げるための道具。」「パートナーは私が幸せになるためにいる。」「世は私が幸せになるために存在している。」「私を幸せにしないものは私の人生を阻むものだ。」

皆さん、世の中も世界も、あなたのために存在しているわけではありません。  
世界は神のために存在しているのです。作品は作者のために存在している。  
この世界をお造りになった作者が神ならば、世界の存在目的はあなたではなく神です。

でも、「そんな神なんか、いないわ」と思ったら、やはり自分というものがオーナーになったように錯覚し、どうしても自分以外の人を意のままに支配しようとする。支配的な人は基本的に嫌われます。皆さんだって「支配してやろう」と思っている人が来たら、何だか嫌じゃないですか？「支配されたくないけど、支配はしたい。他の人を思いのままにコントロールしたい。」この発想は「私が世界の中心だ」と思うところから来ています。これは的外れ。「世界の中心は神である」と聖書は語ります。

そして、最大の問題は**罪から来る報酬は死**です。

ここに生け花がありますが本物ですね。最近は匂い付きの造花、見破れない。非常に美しいけど、根っこから切れてる。だから2週間したら枯れます。どんなに青々と茂っていても、ルーツから切り離されたら、やがて枯れるのです。人間の命のルーツは創造主である神です。人は80年・90年・100年くらいまでは生きる事が出来るかもしれせん。ある人は110歳・120歳まで生きるでしょう。しかし、創造主である神様から切れた結果、永遠に生きる事は出来ません。

人はなぜ死ぬ事になったのか？ **罪の結果**だと言うのです。  
罪とは神から切れる事。神との関係を断ち切って生きる事。  
神から離れた結果、人間の中に死が入りました。普段はそれを忘れていますよ。

ユダヤ人の聖書注解書で『ミドラッシュ』という本がありますが、その中にこんな話があります。周りを垣で囲われたぶどう園があって、それをキツネが見つけた。「ええ匂いするなあ。」1か所小さな穴が見つかったので、そこからもぐり込もうとするけど、体がでかくて入れない。そこでキツネは、3日間断食して体を細く絞った。そうして入ったら、するりんこん。「あっはっは」と水戸黄門みたい。そして取りたい放題・食べたい放題。満喫して「俺って、グレート！」

あまり長居するとぶどう園の主が来て捕まるので、そろそろ逃げようとするのですが、太ったので入って来た穴から出られへん。そこで、3日間断食し体を絞って穴から出ました。

出た時にぶどう園を睨みつけて、「ぶどうよ、おまえは何者だ？ 確かにおまえは甘い。美味しい。しかし、私に何の益になろう。私は入ろうとした時と同じ姿で出て行かなければならない。結局一時的な楽しみに過ぎないのか、このぶどうという奴は」と捨て台詞を言った。  
旧約聖書で「ぶどう・ぶどう酒」は、ある場面に於いては「この世の楽しみ」を表す場合があります。

私たちはオギャーと生まれる時、素手で生まれて来ますね。赤ちゃんてね、ちょっと指ピュッてやったらすぐ掴みますよ。キュって。「もっと掴んで！」みたいに。「オギャー！ 何か掴むぞー！ 世に出てタイトル取るぞ！ 出世するぞ！ 有名になるぞ！ 人気者になるぞ！」と生まれて来て、そして大人になって、何かを掴むでしょう。

しかし死ぬ時、自分が掴んだものは全て、この世界に置いて行かなければならない。  
赤ちゃんの時、素手でこの世に登場したように、この世界から去って行く時、素手で去って行かなければ

ならない。死んでいく時、人が持って行けるのは人格だけです。  
この世で得たものは全部手放して、他の人のものになるのです。

ユダヤの賢者たちは、「これが人生なら、何のためにこんなに苦労したのか？ 人生の意味とは一体何だ？ 空の空。人生とはひと時のぬかるみの、あぶくのような喜びに過ぎないのか？ だったら、マリファナと一緒にじゃないか。」終わった後で「ああ、虚しかった…。」

聖書はこう言うんですね。命のルーツから外れ、人生の目的を与える方から離れ去った結果、人間は何のために生まれて来たのかという人生の目的・使命・何のために生きるのかが分からなくなる。そればかりではない。

もし神から離れたまま死ぬなら、

**ヘブル 9:27 人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている。**

神から離れたまま死ぬば、神をどこにも見出す事が出来ない闇の中に堕ちて行きます。そこに行けば、二度と戻る事は出来ません。その厳粛な事実を神は診断されたのです。それが、**ローマ 6:23 罪から来る報酬は死です。**

「あなたがこのままのコースを突き進んで行ったら、最後は**死**です。滅びです。」

皆さん。これは神にとって、本当に大きな痛みなのですよ。

神は私たちを愛しておられるので、諦める事ができません。

人間は不思議なもので、愛している人のビジョンが自分のビジョンになりませんか？

愛している人の夢が私の夢。愛している人が幸せになっている事が私の幸せ。愛している人が不幸せそうにしていたら、こっちまで不幸せな気持ちになるんじゃないですか？

愛というのは一体化させます。神様は人間を愛するあまり、人間が永久・究極の不幸に堕ちて行くのを、指をくわえて黙って見過ごす事は出来ませんでした。そこで、

**3) 神は救い主イエス・キリストを与えてくださった。**

**ローマ 6:23 罪から来る報酬は死です。**これはバッドニュース。しかし、その後にグッドニュースが続く。**しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。**

神は私たちに素晴らしいプレゼントを与えてくださいました。

先程申し上げたように「祝福の神と最高傑作の人間との間に**罪**という遮蔽物があるので、人は本来生きられたはずの素晴らしい祝福の人生を受け損なっている」と聖書は語ります。

では、どうしたらいいのか？ 罪を取り除く事が大事なんですね。

根っこから切れた植物はやがて枯れる。どうしたらいいか？ 根っこに繋ぎ直したらいい。

レールから外れた列車は脱線事故を起こす。どうしたらいい？ レールにはめたらいいんです。

軌道から外れた惑星は死の星になる。どうしたらいい？ 軌道に戻してやるんです。

私たちは罪を持ったまま、創造主の前に帰る事は出来ません。なので、罪を永久処分するために、神はご自分のひとり子イエス・キリスト、人となられた神を、この世界に遣わしてくださいました。

そして、本来は私が受けなければならぬ全ての罪を、十字架にかかったイエス・キリストの上に乗せたのです。キリストはご自分の命で、あなたの罪の償いを代わりに果たしてくださいました。

なぜそんな事をしてくださったのか？ 愛しているからです。あなたの事を。

私が大好きなクリスチャン作家で、作家としても大成功されたブレナン・マニングという人がいます。彼には小さい時からの大親友レイがいました。学校も同じ。学校行く時も一緒。車買う時も一緒。デートはダブルデート。同じ日に軍の召集令状来て、ブートキャンプも一緒。最終的に配属された部隊が一緒。こんな事があるんだと。小中高、それから青春時代ずっと、こんなに気の合う友達いないというのがレイ。

戦争が始まって塹壕（ざんごう）に入った時、そこでもレイと一緒に。塹壕、分かりますか？  
基地があって、基地の周りに深い溝を掘り、そこに兵士が入って基地を守る。その溝が塹壕です。  
塹壕を突破しないと、敵は基地に近づけない。だから戦いの最前線。

ある時、敵の攻撃が小休止して、ひと息つきました。レイがポケットからチョコレートバーを取り出してかじりながら、「昔からこれ好きだね。高校時代、ブルックリンで買いに行ったよね。」  
青春時代の話で盛り上がったその時に、信管を抜いた手榴弾が入って来た。2秒後に爆発する。

爆発直前の手榴弾を見たレイは、チョコレートバーを地面に落として手榴弾に覆いかぶさり、その瞬間に炸裂して、彼の体はミンチになりました。  
そのお陰でブレナン・マニングは九死に一生を得、生き残る事が出来たんです。

親友の身代わりによって命拾いしましたが、その後非常に気が重くなった。ブレナンは、生き残った事をラッキーとは少しも思いませんでした。あんなにいいヤツが死んだという事で、生き残った事に罪悪感を持っている。「なぜ彼が死んで、俺が生き残っているのか？」

罪悪感を持っている人は、自分自身が幸せになる事を禁じます。「私は罰を受けて生きて行くべきだ」と思い込むものなのです。だから、自分の事しか考える事が出来ない。自分の事で精一杯。

彼は物事を素直に見る事が出来なくなり、最終的に「レイはなぜ俺の代わりに死んだ？ なぜそんなバカな生き方をした？ 生きていたら受ける事が出来た色々な楽しみを、なぜ命を捨てて手放した？ 彼は俺の事を好きだったのか？ それとも、はずみでやったのか？」訳が分からなくなりました。

レイは一人息子。お父さんはいない。母一人子一人。お母さんに、何と挨拶したらいいのか分からない。何年か経って、ようやく勇気を出してお母さんの所に行きます。  
夜遅く紅茶を飲みながら、お互いに何も語らない。だけど、お母さんがブレナンを自分の息子のように丁寧にもてなすので、つい心が緩んで、「レイは、なぜあんな事をしたんでしょう？ 僕を愛してやったんでしょうか？ それとも発作的にそうしたんでしょうか？」

そうしたら、それまでニコニコしていたお母さんが立ち上がって、人差し指を振り、ブレナン・マニングの顔をその指で指して（普通は失礼な事です）、「あの子があなたのためにできるこれ以上の事って、どんな事があるか言ってごらん？ あの子があなたを愛していないなら、なぜあんな事をするの？ あなたは息子の愛を試みてはならない。1つしかない命を献げたんです。」

実は、レイの本名はレイ・マニング。ブレナンは「レイのお陰で自分は生きた。」  
それで名前を変えました。ブレナン・マニングは後の名前です。  
親友の名前を付けて「彼の命のゆえに私は生かされた」と、生涯忘れないようにしたのです。

皆さん。人生の最後に、私たちが木っ端微塵に砕くような裁きが待ち受けているとしても、キリストがあ

の十字架の上で、その裁きに覆いかぶさってくださいました。私たちは安全なのです。

「神は私を愛しているの？ なぜそんな事が言える？」言えます！

イエス・キリストの十字架を見れば、愛なしに、あんなバカな事をする人はいません。

人となられたイエス・キリストは、ただあなたを愛し、永遠の命を与えるために、自らの意思で十字架に向かって行ったのです。彼は十字架にかけられたんじゃない。自分の意思でかかりに行った。

それ以外に、あなたを赦す方法が他になかったから。

ブレナン・マニングはサバイバー・ギルド、生き残った事によって非常に責められたのですが、それはレイが死んでそのままだったからです。しかし、キリストは死んでそれきりではない。

キリストはあなたの罪の贖いを成し遂げて、死後3日目に、死を突き破って復活なさいました。

死んだままじゃない。よみがえったのです。

**ローマ人への手紙**、**ローマ**と書いてあるでしょ。これはパウロという人が書いた手紙です。

「私の罪のために死んだイエスはそのままではなく、死後3日目によみがえった」と宣べ伝えていた初代教会のクリスチャンに対して、パウロは「そんな世迷い事を広めて、ユダヤ世界を混乱させるのは良くない！ それは神への冒瀆だ！」と迫害する側の人でした。そのための人殺しにまで関わった人物ですよ。

その人が「イエスはキリストです！」と宣べ伝えているんです。

何が彼の人生の方向性を180度変えたのでしょうか？ のっぴきならない事、パウロ自身が復活のイエス・キリストと出会ったのです。それで、今までの生き方を全部否定して、180度方向を変えて、「イエス・キリストこそ、死んでよみがえった、あなたのための救い主だ」と宣べ伝えるようになりました。

私はキリストの復活を信じていますが、見た訳ではありません。

しかし、キリストの復活を見た弟子たちの証言が、あまりにも信憑性があり、それを否定する事が出来ないで、その証言を受け入れているのです。

キリストは死んで終わりではない。よみがえった。という事は、今も生きておられる。

生きておられるから、このお部屋にもいらっしゃいますよ。

そして今、皆さんが心の中で考えている事、全てダダ漏れです。繕う必要はない。

ありのままの思いを打ち明けたらいいのです。

**ローマ 3:22 すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、それはすべての信じる人に与えられ、何の差別もありません。**（新改訳第3版）

過去にどんな罪があったとしても、どんなに遠回りをしたとしても、どんなに苦い思いを持っていたとしても、**イエス・キリストを信じる信仰**によって、「イエス・キリストが私の代わりに罰を受け、墓に葬られ、3日目によみがえってくださった。この方こそ、私の救い主です。」

そう受け入れる人は、**神の義の衣**を着せていただけるのです。

神がご覧になっても、非の打ち所がない者とみなされます。

**それはすべての信じる人に与えられ、何の差別もありません。この方を信じる。**

ある方にとって、**信じる**というのは、とてもおっかないように思うかもしれません。

神は目で見ることが出来ないで、見えない方に人生を委ねるのは少し怖い感じがしますね。

